

第四章 文化

日本に仏教が伝えられたのは、6世紀前半と言われています。海外からの文化がいち早く伝わった北部九州では、早い時期に仏教が根付いたとも考えられています。糸島地方に怡土七カ寺が築かれたのも、そういった背景があったからかもしれません。仏教は、やがて各時代の政治権力とも関係を強め、日本古来の神道と混ざり合ったり分離しながら、今日まで伝承されています。

もともと、自然に対する人々の恐れや敬いの気持ちは、さまざまな儀礼や習慣を生み出し、地域ごとに特色のある生活文化を築いてきました。さらに、神道や仏教が浸透するにつれ、祭りや行事を通して地域の連帯や友好を育み、人々の精神的土壌を形成してきました。

二丈町には、長い間伝承されている祭りや行事、生活習慣がたくさんあります。その由来を知り、継承する中で、町の歴史や文化は輝きを増していくでしょう。

舞い、踊り、語るうちに魂の継承がある。



3



2



写真① 大入白山神社の「捕鯨」の絵馬。明治時代後期まで捕鯨が行われていたようです。絵馬には、昭和17年ごろまでの網小屋が描かれています。

写真② 毎年1月25日に近い日曜日に淀川の天満宮で行われる百々手祭り。豊作祈願と悪魔払いの祭りで、弓射のほか「大飯食い」という珍しい神事があります。

写真③ 大入の盆綱引き。大入地区に伝わる盆の行事で、8月15日午後、カズラで作られた大綱を壮年・子ども組と青年組に分かれて引き合います。